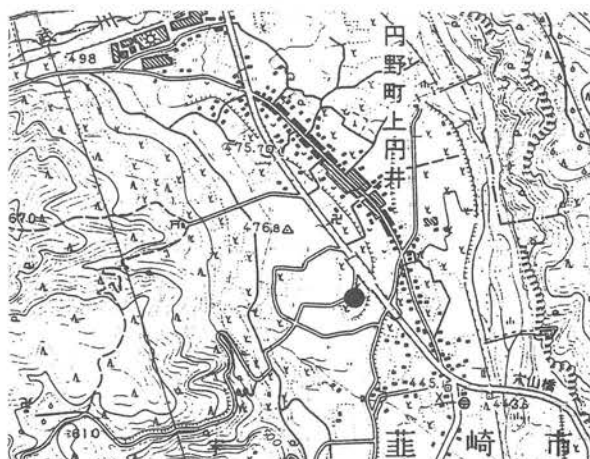


2. 石之坪遺跡

所在地 韮崎市円野町上円井
調査原因 円野地区圃場整備に伴う事前調査
調査期間 平成10年5月30日～12月10日
調査面積 4,000㎡（約20,000㎡）
調査主体 韮崎市教育委員会
担当者 関間俊明・秋山圭子



遺跡の概要

石之坪遺跡は、山梨県韮崎市円野町上円井に所在し、北に八ヶ岳、南に富士山、西に南アルプス、東に釜無川・七里岩を望むことのできる、標高450m前後の台地の張り出したいわゆる舌状台地上に存在している。

本年度は、圃場整備事業の計画変更により国道を挟んで東側の調査範囲を帝京大学山梨文化財研究所に委託し、韮崎市教育委員会では昨年度に引き続き西側の約4,000㎡を対象に調査を行った。本年度の調査範囲は舌状台地上の先端から中心にかけてで、遺跡の中心部分にメスを入れる形になった。竪穴住居跡や土坑等の重なりは非常に多く、竪穴住居跡が約8軒重なって確認されるなど、予想以上の遺構・遺物が地中下に眠っていたことを確認した。その眠っていたもののいくつかをトピック的に写真を中心に紹介していきたい。

写真①は石之坪遺跡の中でもほぼ中央に作られた縄文時代中期（勝坂式期）の150号竪穴住居跡である。写真は柱穴と炉跡のみを残した状態で、手前にも1軒住居跡があり、150号住よりも新しく作られたものである。床面に接して完形の深鉢形土器2点や多数の打製石斧などが出土した。写真②は150号住の炉跡の接写写真である。やや扁平な石を丸く囲ったものである。

写真③は144号竪穴住居跡としたもので、150号住よりも新しい（曾利式期）住居である。写真では柱穴を全部掘っていないが、掘り上げたところ5本柱であることを確認した。写真の上部の四角く石で囲ってあるのが炉跡であり、縦長の川原石を四角く並べ、角には細長い石を立石状に立てていた。写真④は144号住の遺物出土状況の接写写真である。

写真⑤は遺跡内で台地の先端部（南）に作られた112号竪穴住居跡の炉跡内の遺物出土状況である。写真中央の把手のある無文の土器は吊手土器で、石之坪遺跡では現在のところ2例目である。

写真⑥は土坑の中から完形の土器が逆位で埋設されていた状況である。埋設土器は胴部が強くくびれ口縁部には複雑な文様の施文された把手が4個つくいわゆる多喜窪タイプである。また、このほかに内側の赤彩された小形土器が出土した。恐らく顔料を入れていたものと考えられる。

写真⑦は土坑の底面に曾利式土器が横位で出土した状況である。土坑の壁際からは磨石・凹石などの石器が出土した。

写真⑧は底部を欠く土器を逆位に埋設したものである。

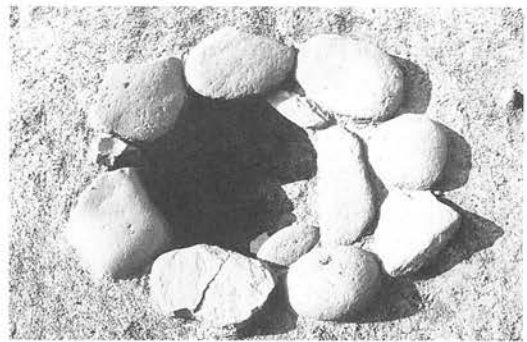
以上に紹介したものは石之坪遺跡の発掘調査の中で発見された遺構・遺物の一部である。現在のところ、発見した遺構・遺物の記録を中心に行っているが、来年度は報告書を作成していく予定である。（関間）

石之坪遺跡遺構配置図





①150号竖穴住居跡全景（南から）



②150号竖穴住居跡 炉跡（東から）



③144号竖穴住居跡全景（南から）



④144号竖穴住居跡遺物出土状況（北から）



⑤112号竖穴住居跡 炉跡内釣手土器



⑥25L-SD1 土坑遺物出土状況



⑦18H-SD1 土坑遺物出土状況



⑧24J-SU1 埋甕出土状況